

2015 花園大学 先生のおすすめ図書

v.3.0 2015 NOVEMBER

花園大学の先生が選んだ、皆さんにぜひ読んで欲しい本のリストです。先生のコメントが付いています。図書館1階の「おすすめ図書コーナー」に配置してあります。貸出することもできます。貸出期間は1週間、貸出延長はできません。

花園大学情報センター(図書館)



臨床心理学における科学と疑似科学

S・O・リリエンフェルド, S・J・リン, J・M・ロー編
北大路書房 2007

学長 丹治光浩

常識を疑おう

<請求記号>

146/L 62

高校までの学習とは違い、大学では自ら問題意識を持ち、考えることが要求されます。本書ではいくつかの心理学理論を疑似科学として紹介してありますが、それが果たして真実であるのかもわかりません。実際に読んでいただくとわかりますが、本書では徹底的な議論がなされています。疑ってかかることから科学は始まるのです。



震災復興と宗教

稲場圭信, 黒崎浩行編著
明石書店 2013

文学部 仏教学科 吉田叡禮

<請求記号>

161.3/So
63/4

本書は、東日本大震災が起こった一年後に出版されました。そのとき宗教者たちは何を悩み、何をしてきたか。これを教訓に、どういった動きが生まれたか。そして、いま、宗教や宗教者は社会から何を求められているのか。現在、宗教や宗派の垣根を越えて心のケアに取り組む若い宗教者たちが新たな宗教のあり方を築きつつあります。臨床宗教師・臨床仏教師・傾聴師・安寧僧といった認定資格も生まれ、研究や討論を繰り返しつつ、実践の場で日々研鑽を積んでいます。いま一度その原点を考えてみたい。本書では、研究者や宗教者など様々な識者らによる事例報告と論考を通して、社会における宗教および大学の役割や機能について考察されています。私も花園大学および花園禅塾の活動をコラムで紹介しています。



日本の弓術

オイゲン・ヘリゲル述

岩波書店

1982

文学部 仏教学科 清水大介

日本人の技を究めるとはどういうことか

<請求記号>

岩波文庫/
青-661-1

ヘリゲルの『日本の弓術』は、戦前、一人のドイツ人が、当時日本最高の弓術師範の一人であった阿波研造の許で、日本の弓術の奥義を究めていく記録です。日本の文化は、昔から「道を究める」ということを目標にし、無我の境地に到るために切磋琢磨してきました。そのような努力が実際にはどうということなのか、日本人の大切に「こつ」とか「勘」ということがどのような境地を目指しているのかが、本書を読むことでわかります。小冊子で読みやすいですが、内容は奥が深いです。



戦争と図書館

清水正三編

白石書店

1977

文学部 日本史学科 菅修一

<請求記号>

010.21/Sh
49

今ではコンピュータ端末も利用出来て、綺麗で居心地のよい図書館が大多数です。けれど、日本が戦争に向かっていった時代、図書館も戦争に巻き込まれ、戦争に加担していました。そういう図書館の過去を振り返りながら、図書館が本当に目指すべきものは何なのか、考えてみませんか？



贈与の歴史学：儀礼と経済のあいだ

桜井英治著

中央公論新社

2011

文学部 日本史学科 平井上総

<請求記号>

中公新書
/2139

タイトルを見て「プレゼントの歴史」を想像してしまうかもしれませんが、そうではなく、日本の中世における贈与のあり方から、当時の経済や社会を読み解いていくものです。中世人は贈与に対しどのような姿勢を取っており、それが当時の社会をどう規定していたのか。現代とは異なる過去の人々の心性を読み解いて時代像に還元していく社会史の手法による、読みやすく示唆に富んだ一冊になっています。



官僚の風貌

水谷三公著

中央公論新社

1999

文学部 日本史学科 松田敬之

<請求記号>

210.6/N
71/13

近代日本における官僚制の歴史をわかりやすく解説している一書です。官僚たちのおもしろい逸話もたくさん掲載されています。また、関連書籍としては、清水唯一朗『近代日本の官僚－維新官僚から学歴エリートへ』(中公新書2212)(中央公論新社、2013年)も本学に所蔵しています。併せて読むと現代まで続く官僚制の歴史を体系的に学ぶことが出来るでしょう。



なぜ日本は没落するか

森嶋通夫著
岩波書店

2010

文学部 日本史学科 山中高光

<請求記号>

岩波現代文庫/S205

本書において、1999年に著者(1923-2004)は2050年の日本を予想し、「経済的にはそこそこの水準を保ちえても、国の影響力では全く非力で無為の国、それが著者の見る、21世紀半ばの日本である」とし、日本は没落するとしている。著者は、京都大学(在学中学徒動員)卒業し、執筆当時LSEおよび大阪大学名誉教授、かなりの天邪鬼であったといわれる。さまざまな議論もあろうが、その青春時代の戦争体験を背景とした熱意のこもった発言(本書以外にも著作は多い)には、昨今の安保論議の中で、耳を傾けるべきものが多いと思う。



図書館の主 1巻~11巻(継続中)

篠原ウミハル著
芳文社

2011-

文学部 文化遺産学科 師茂樹

図書館司書課程の学生さんにおすすめ

<請求記号>

Q016/Sh 67/1~11

児童書専門の私設図書館を舞台に、個性的で知識豊富な司書と、様々な問題を抱えた利用者たちが繰り広げるドラマ。図書館には大学図書館のような専門書や学術雑誌がメインのところもあるが、一般的には本書に出てくる図書館のような、物語や小説に触れる場としての図書館のほうが想像しやすいかもしれない。本書では、人間ドラマの間に、図書館司書の役割、図書館と書店との関係、利用者情報の問題などがはさまれていて、図書館司書課程を学ぶ学生さんにも考えるヒントを与えてくれるだろう。



職業としての小説家

村上春樹著
スイッチ・パブリッシング

2015

文学部 日本文学科 曾根誠一

<請求記号>

914.6/Mu 43

その昔、日本文学科では、最も優れた学生が作家になり、次は評論家、劣る者が研究者になるのだとささやかれていた。研究者の端くれに分類される(と思っている)私にとって、高く仰ぎ見るしかないノーベル文学賞の常連候補・村上春樹が、創作のヒケツを語った注目の書。君は作家になれるのか？



私が変われば世界が変わる: 学生とともに創るアクティブ・ラーニング

花園大学アクティブ・ラーニング研究会編
ナカニシヤ出版

2015

文学部 創造表現学科 秦美香子

花園大学式アクティブ・ラーニングって?

<請求記号>

377.15/H 28

花園大学の売りのひとつ、「アクティブ・ラーニング」。アクティブ・ラーニングを推進している大学は実は本学だけではないのですが、本学のアクティブ・ラーニングは、よそとはちょっと違う、と考えている教職員たちがいます。どう違うんでしょう? それを具体例を通して語られているのが本書です。「体育実技VI」「マンガ研究入門」「情報と社会」「起業研究」「生徒指導の研究」を履修した皆さんは、とくに必見(先生たちの授業にかける情熱・苦勞・失敗が見えるかも)。



くらのやみの速さはどれくらい

エリザベス・ムーン著
早川書房 2008

社会福祉学部社会福祉学科 福富昌城

自分とは？、変化していくとは？

<請求記号>

ハヤカワ文庫/SF1693

主人公のルウは自閉症(高機能自閉症)。そのパターン認識能力を活かして製薬会社に勤めている。会社では彼らのような社員のために特別な環境が用意され、彼らは社会人として生活している。ところが、そうした特別な対応を資金の無駄と考える上司から、新しく発見された自閉症の治療(といっても生体実験のようなもの)を受けることを強要される。手術を受けるべきか悩むルウ…。21世紀の『アルジャーノンに花束を』といわれる小説だが、治療を受け、自閉症者の能力を失った後の自分も自分なのかと自問するルウの姿に、自己とは何かを考えさせるテーマが隠れている。



察知力

中村俊輔著
幻冬舎 2008

社会福祉学部社会福祉学科 渡辺恵司

人生を歩むうえで大切なことがこの本には詰まっています

<請求記号>

幻冬舎新書/082

サッカー日本代表を退いても、今なお横浜マリノスで活躍をされている中村俊輔選手。彼のサッカー人生で得られたことは、きっと私たちの人生においても必要なことが詰まっている。～人として「空気が読める力」は重要なことだと思っている。この空気を読む力、察知する力は、人を思いやる力でもある。相手を知り、自分を知り、そして何をすべきか、どういう言葉を発するべきかを考える。そういう気持ちがあれば、人間関係はスムーズに運ぶだろうし、どんな仕事であっても、自分の力を発揮するきっかけをもたらしてくれる…サッカー元日本代表:中村俊輔の「察知力」より～



REAL(リアル) 1巻～14巻(継続中)

井上雄彦著
集英社 2001-

社会福祉学部臨床心理学科 小川恭子

車椅子バスケットボールを軸にしたストーリー

<請求記号>

Q783.1/I 55/1～14

スラムダンク、バガボンドの著者の作品です。現実を生きる人びとの姿が描かれています。しっかり向き合って読んでもらいたい本です。



社会的ジレンマのしくみ:「自分1人ぐらいの心理」の招くもの

山岸俊男著
サイエンス社 1990

社会福祉学部臨床心理学科 妹尾香織

<請求記号>

361.4/Y 23

環境問題や迷惑駐車など、集団全体ではこうすれば良いと分っているが誰も自分から進んでそうしようしない現象が社会には多くあります。本書は、多分野でなされてきた「社会的ジレンマ」研究を社会心理学者が分りやすく整理しています。社会心理学とは、個と個、社会と個などの相互作用の仕組みや影響を解明する心理学の一分野です。個人的な問題がどう社会全体の問題とつながっているのか。利益の葛藤というテーマを通じて考えてみて下さい。



コウノドリ 1巻～10巻(継続中)

鈴ノ木ユウ著

講談社

2013-

社会福祉学部臨床心理学科 橋本和明

<請求記号>

Q495/Su
98/1～10

産婦人科医の鴻鳥サクラを主人公にしたアニメ。子どもの問題, 生と死の問題, 養育や子育ての問題, 性やセックスの問題などさまざまなテーマで繰り広げられる。人間関係の仕事に就こうと思っている学生は必見の本である。2015年10月からTBSで綾野剛が主演でドラマ化もされる。



アジア・太平洋戦争

吉田裕著

岩波書店

2007

社会福祉学部臨床心理学科 藤井渉

<請求記号>

岩波新書
/1047

安保法制をめぐる様々な論議が湧き起こっています。このような問題を考える場合、必ず過去の戦争ではどうだったかが問われます。改めて系統的に、体系的にアジア・太平洋戦争について勉強してみませんか。少し専門的ではありますが、大事なポイントがしっかりと抑えられてまとめられており、お勧めです。



チェルノブイリの祈り: 未来の物語

スベトラーナ・アレクシエービッチ [著]

岩波書店

2011

社会福祉学部児童福祉学科 保田恵莉

平和の願い

<請求記号>

岩波現代文庫/S-225

本書は普通の人々が黙してきたことを、被災地で聞き取り、人間の魂に触れる一冊です。1986年の巨大原発事故に遭遇した人々の悲しみと衝撃、四半世紀後の福島原発事故の渦中に、チェルノブイリの真実が蘇っていきます。行き場のない想いを胸に秘めて生きてきた人たち、死に絶えた大地、人間の愛と悲しみに満ちた戦争は嫌だ! チェルノブイリの祈りを、いま人々が語りはじめた。



保育に役立つ! 子どもの発達がわかる本

金子龍太郎, 吾田富士子監修

ナツメ社

2011

社会福祉学部児童福祉学科 吉田貴子

子どもの発達がよく分かります

<請求記号>

376.1/H 81

この本には、子どもの発達の特徴が年齢ごとに書かれています。イラスト入りで心身と運動機能の発達、発達に合わせた遊びや環境が分かりやすく書かれています。大人が子どもの興味を広げるための方法も具体的に記されており、特に保育所や幼稚園実習に行く前後に読むと、子どもの発達を復習する上で参考になります。



子どもが巣立つということ：この時代の難しさのなかで

浜田寿美男著
ジャパンマシニスト社 2012

社会福祉学部児童福祉学科 山口真希

<請求記号>

371.45/H 22 いまという時代を生きる子どもたちにとって、学校や社会はどのように目に映っているのでしょうか。子どもからおとなへ、巣立ちの過程において子どもたちは何に戸惑い苦勞をするのでしょうか。現代が抱える教育問題や事件を紐解きながら、それらを織り交ぜた議論が展開されています。子どもたちがいまこの世界をどのように生きているのか、これから私たちはどう生きていくべきかを考えずにはいられない、そんな心境にさせる1冊です。



小学4年生の世界平和

ジョン・ハンター著
KADOKAWA 2014

文学部 教職課程 中善則

<請求記号>

こんなおもしろくて夢中になる授業、つくりたいね！

375.3/H 98 クラス全体で世界平和を達成するゲームを開発したアメリカのジョン・ハンター先生の授業記録。とにかく、子どもが夢中になって課題に取り組みます。「世界」を平和にするには、何をすべきかを、全員で考えます。参加する誰もが、全体に貢献しない限り、「勝利」はありません。そう、誰もが不幸にならないことを前提に社会をつくるべきでは？その当たり前のことを、このゲームは教えてくれます。ぜひ、読んでみてください。



ことばと文化

鈴木孝夫著
岩波書店 1973

文学部 外国語教育課程 有吉淳一郎

<請求記号>

080/4-858 外国語の習得には、その国の文化や、ものの捉え方の違いを知ることが大変重要です。みなさんは食事の際、スプーンを口元にどのような「角度」で持っていますか。日本人は顔と平行にし、西洋人は直角に近い角度にするのです(今度こっそり観察してみましょう)。また、日本語では「一郎、やめなさい！」のように言いますが、英語では強い感情を込め“David Smith! Stop it!”と、姓も言うことがあります。日本語で「田中一郎、やめなさい！」とは言いませんね。こんなことを知るのも、外国語習得の一步。ぜひ一読を。



科挙：中国の試験地獄 改版

宮崎市定著
中央公論新社 2003

文学部 外国語教育課程 洪濤

<請求記号>

中公文庫 /B-006-01 中国史に疎い者でもこの本を繙くと、「中国の試験地獄」というサブタイトルと、いきなり出てくるカンニング下着の写真に興味を引かれたらと思う。学問的なことばかりではなく、試験にまつわる裏話や秘話などが数多く記されているので大変読みやすい。そして何より、著者の文章が上手い。司馬遼太郎風な文章で、何も知らない人が読んでも分かりやすい。サブタイトルの「試験地獄」という言葉は決して誇張ではない。日本の試験地獄を経験した皆さんにとって、この本で知った試験地獄は想像すらできない世界であった。



思考のレッスン

丸谷才一著

文芸春秋

2002

文学部

外国語教育課程 衣川賢次

<請求記号>

文春文庫/ま
-2-16

これはインタビュー形式になつてゐるが、架空のインタビューを創作したものに相違ない。文章を書くのに本書では「対話的に考へる」ことを勧めてゐるし、またさうすると、なんでも自由に盛り込める。質問者に自分の『文章読本』を名著だと言はせることも(じじつ名著だとは思ふけれども)。インタビューなどは、事後いくら整理しても散漫をまぬかれないが、この書はじつに綿密に構成されてゐる。あの『思考の整理学』が「朝いつもより三十分早く起きて、昨夜の思ひつきをメモせよ」などといった思ひつきばかり並べてゐるのは、雲泥の差である。「本を読むコツ」、「考えるコツ」、「書き方のコツ」を楽しく伝授してゐるほかに、本書は丸谷自身の経験を語るものであるから、かれ自身のことがよくわかる。わたしは愛読者としてそれを知りたかつたし、最近中国でかれの短篇集の翻訳が出版されたが(『丸谷才一小説集 樹影譚』方明生訳、上海文化出版社、二〇一〇)、選択がわるいうへに、張競の解説がまづいのは、本書を読んでゐないせいだとなつかりした。本書の解説は鹿島茂が、これまた丸谷をまねて架空対話形式によつて、女子学生に「いかにレポートを書くか」を教へる設定で書いてゐて、本書の巧みな要約ともなつてゐる。わたしは大笑ひしながら、感歎しつつ巻を閉じたのであつた。